

土・まち・みどり

通信第75号

2019. 4. 23

発行 NPO法人土とみどりを守る会
連絡先 6421-2118(事務局)

CONTENTS ◆奥沢の風景づくりについて ◆みどりの維持管理の取り組み ◆奥沢グリーンマップ改訂版の制作
◆おくさわ今と昔 ◆春のつどい報告 ◆活動報告 ◆会からのお知らせ

奥沢の風景づくりについて

1998年に始まった当会は、昨年創立20周年を迎えました。奥沢の住みやすい住環境を次の時代に継承していきたいという多くの会員の皆さまのサポート、お励ましの言葉に支えられて活動を継続することができていることに、感謝いたします。

奥沢の住環境は、個人の宅地内の開かれたみどりと、その落ち着いた家並みで生み出されています。奥沢に長くお住まいの方が家を建て替える時は、たいがいそのような奥沢の地域性を引き継いでいただきますが、新しくお住まいになる方や業者さんによる建物には、みどりが全く無かったり、これまでと異なる家並みになるケースもあります。

そこで、奥沢の住みやすい住環境を次の世代に継承するために、何か「協定」があると良いという区の担当者の助言を受け、当会の活動が始まりました。最初の具体として、2004年に世田谷区風景づくり条例に則った「界わい宣言」として、「奥沢・土とみどりの街づくり宣言」を奥沢2丁目の一部（82軒）で、区で最初に締結することができました。

宣言の目標：「緑豊かな街並みを維持し、心安らぐ街にしていくための住環境づくり」

しかし、その主旨を新しくお住まいになる方や業者さんに伝えることが難しく、その力は限定的でした。そこで、世田谷区風景づくり条例に則った次のステップとして、2017年度から世田谷区都市デザイン課の主導の下、奥沢交和会との連携により、「奥沢の風景づくり」として、区で最初の「界わい形成地区」の指定に向けた作業が進められています。

奥沢2丁目の「旧海軍村」と「大ケヤキのある散歩道」あたり、奥沢1丁目を斜めに横切る道路の周辺あたりを「界わい形成地区」として重点的に誘導し、それ以外の奥沢1、2、3丁目は「方針」を定めることが検討されています。2018年度末に、区が対象地域に全戸配付して実施したアンケート調査の結果によると、その主旨に多くの賛同を得られているということです。アンケートで送られたメッセージから、区の担当者は、奥沢にお住まいの方々の住環境に対する高い関心に驚いています。

会としての長年の悲願の実現まで、もう少しという段階になりました。これから、より詳しい内容について、公開ワークショップなどで検討を行いますので、どうか引き続きよろしくご意見申し上げます。



詳細は下のQRコードから奥沢界わいニュース第3号をご覧ください。



みどりの維持管理の取り組み

奥沢の風景づくり（案）の奥沢1～3丁目全体の目標は「みどりと人がつなぐ おくさわの風景づくり」となっています。これまで、会としてみどりを通じた地域のコミュニケーションに取り組んできましたので、今年度はその経験を活かした仕組みづくりに取り組みたいと考えています。

2010年から、奥沢2丁目、1丁目の一部で落ち葉掃きを実施しており、奥沢交和会、奥沢小学校とも連携しています。今年度から、その対象範囲を拡げることができれば良いと考えていますが、実施の日程調整、お声がけの流れ、用具の準備など、会のスタッフがノウハウの提供をすることで、それぞれの地域で展開できればと考えています。

今年度の新たな「試行」として、地域で連携した「樹木の剪定」を実施することを計画しています。一本の樹木のために、業者を手配するのはお金もかなり大変なので、特定の道沿い、あるいはエリアで、

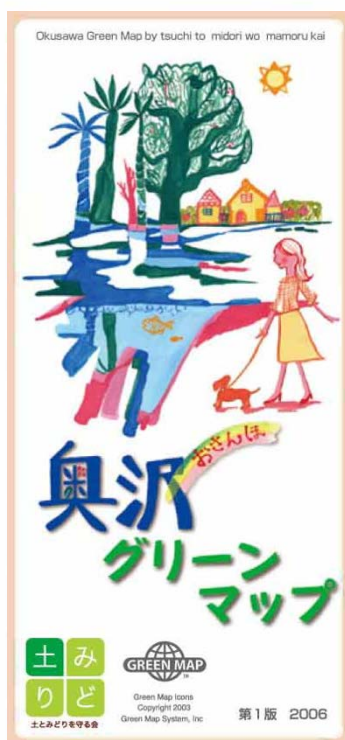
一斉に剪定をする。高木は植木屋が剪定作業を行い、手が届くところはなるべく地域の方が一緒に作業をする、といったイメージです。特に出る枝葉の処理が大変なので、それは植木屋のパッカー車（ゴミ収集車）でまとめて回収します。

実施時期は、常緑樹、落葉樹の両方の剪定に適した季節として、2月～3月頃を想定しています。「地域の絆」助成金の申請をしますので、獲得できれば低コストで実施できます。

落ち葉掃き、樹木の剪定を地域で一緒に取り組むことで、緑のオーナーの負担を減らし、地域のコミュニケーションも深まることと考えています。

このような活動のためには、地域のまとめ役の役割が重要です。これまでの会の活動は奥沢2丁目为中心だったので、奥沢1・3丁目での展開については、ご協力をいただける方を募りたいと思います。どうか、よろしく願いいたします。

奥沢グリーンマップ改訂版の制作



表面



裏面



2006年に「奥沢グリーンマップ」第1版を発行しました。会員による取材や公開ワークショップにより情報収集したもので、まち歩きやお散歩に便利ということで好評です。印刷版は在庫が無くなりましたが、左のURL、QRコードでダウンロードできます。

内容の更新が必要なので、改訂版の発行に向けた準備をすすめています。その後、東玉川地区を含めたいという声があり、また旧奥沢村の範囲に含まれる等々力の一部が農業公園として都市計画決定されたこともあり、範囲を拡げる予定です。その他、子育てや、車椅子利用者にとって必要な情報や、公共施設、お店といった地域情報の掲載も検討中です。

この新しい奥沢グリーンマップ改訂版の制作が、「奥沢ガーデンタウン構想」の実現に向けた、様々な立場の方々をつなぐきっかけにもなればと考えています。発行は来年度以降の予定です。

制作に関心のある方はぜひ事務局にご連絡ください。

<http://tsuchimidori.net/greenmap>

おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方や、新しく移ってきた方など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただいています。)

「奥沢東通り」

奥沢一丁目 富坂 桂子

私の住んでいる家の近くの奥沢東通りは現在殆どのお店が無くなり、食糧品は八百屋さんが一軒あるのみです。

私が 住み始めた頃、六十年も昔ですけれど、おさしみの美味しかった魚屋さん、朝早く行くと暖かな甘い匂いが立ち込めていたお豆腐屋さん。お隣の八百屋さんは大きくて何時も賑わっていました。子供好きな酒屋さんは、子供もおじさんが大好きでした。お向かいにはお惣菜屋さんがあって、煮物のコツを教えていただいた事もありました。

角の手芸品と煙草のお店は何時も何人かの人が 楽しげに話し込んでいましたし、お肉屋さんは夕方並んで居人がいました、お菓子屋さんは二軒、お蕎麦屋さん、中華屋さん、交番も貸本屋さんまで有りました。貸本屋さんの後は手作りケーキ屋さんでした。

思い出してみるとみんな懐かしく、お店の方のお顔やお店のようすが目に浮かびます。もうご存知の方も少ないと思います、私の家の横に駄菓子屋さんがありました。

結婚以来地方勤務の官舎住まいでしたが、子供が幼稚園に入る年になり、私と子供だけ先に東京に帰る事に致しました。夫の父が借家として持っていた家を空けて戴くように予め人を介してお話はしていましたがいざ来て見ましたら、通りに面した庭の一角が駄菓子屋さんになっていて、しかもお貸した方でないその兄弟一家が住んでいました。しかし空けて戴くということは当然大変な事で色々有りましたが、駄菓子屋さんの有る一角をお譲りして暫く仲良く暮らしました。駄菓子屋をやっていた方は昔小学校の先生だったとかで小さい子にはとても優しく、奥中の生徒は態度悪かったりすると叱られていました。

商店街が賑わっている反面東玉川小学校に行く道は、一面畑で空が広く夏は涼しい風が冬は寒風と自然豊かな道でした。

時が過ぎれば人も街も変わっていくのは当たり前の事ですが、昔馴染みのお家が新しくなり一軒が二軒になったりすっかり様変わり致しました。けれどそのおかげで、若い方が増え小さいお子さんも多く見かけるようになりました。街が若返ったという事でしょうか。新しいお家も木やお花が良く考えて配置されていて感心させられます。

私も元気である限り猫の額のような庭に花を咲かせていくつもりです。この町が何時までも穏やかな緑豊かな町であること心から願っています。

「奥沢に住まいして」

奥沢一丁目 若林 明子

今ではすっかり奥沢の街並みが好きになりました。

越して来てから 30 年、以前住んでいた大阪と同じ年月になってきました。初めは友人もいなくミニコミ誌で高齢者の食事会のお手伝いの募集があり、まちづくりセンターのご紹介でお手伝いさせていただきました。そのご縁で高齢者クラブ「天寿会」に入会、友人も増え、更に「土とみどりを守る会」にも入会して、奥沢の事を詳しく知ることが出来ました。

歴史のある奥沢。『毎朝馬がお迎えに来ていたのよ』など想像だに出来ないお話が伺えたり、今にもサザエさんが出てきそうな奥沢の街並み。住人も同年輩の方も多くとても馴染み深い奥沢です。

シェア奥沢を拠点に驚草の話、崖線の話、街並み保存の話、奥沢史跡歩き、コンサートやアレンジメント等時間の許す限り参加させていただき楽しませて頂いております。

総会の園遊会は田舎育ちの私には(新潟県佐渡出身)雰囲気が大好きです。近隣の交流がここにはありました。丹精込められた鉢植えを購入しました。それはクリスマスローズから海老根、矢車草などが次々に出てきて、あの小さな植木鉢が一年中楽しめた事を思い出しました。クリスマスローズや海老根は今でもベランダを飾っています。

今では私の故郷になりつつあります。落葉掃き等何かお手伝いをしなければと思っていた自分がそろそろお世話される側になってきましたが、でもいつまでも語り合える住み良い奥沢であってほしいと思いますし、皆様がその気持ちを持ち続け、「土とみどりを守る会」を通して交流が深まることを願ってやみません。

住み良い奥沢に住み続けたいと思うこの頃です。

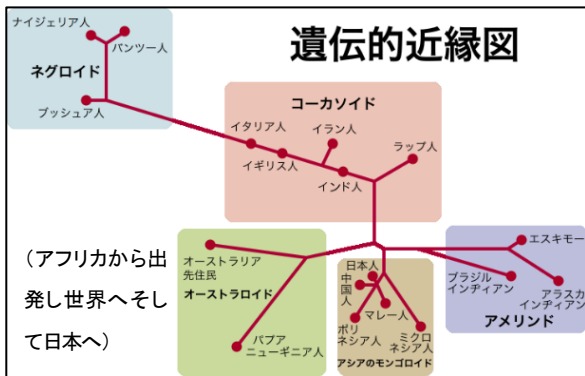
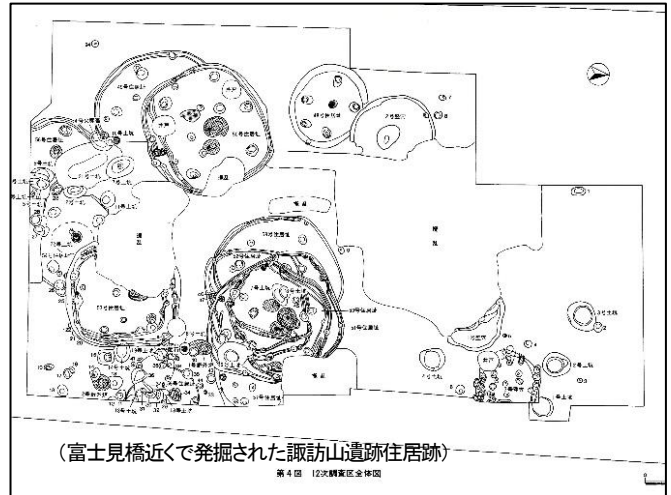


春のつどい報告

奥沢の風景と歴史を振り返ってなど

○昨年9月のまちめぐり(弁天池跡に続き、4丁目→東玉川→3・1・2丁目と開かれた庭・路地裏・旧家・残された井戸等を歩きながら見学)は、参加されてない方向けに、当時配布した写真入りの資料を再印刷し、それを中心にお話しました。参加された方々にとって同じ話の繰り返しにもなるので、新しい視点からの歴史ピックスとして、今回の街歩きでも諏訪山遺跡を遠景で説明したので、世田谷区に人が住み始めた大昔(3万2千年前)の様子をお話しました。

諏訪山遺跡は縄文時代中期を中心に奥沢台の東から南向きの場所に、家族・親族で小屋を建て、環濠を掘って生活していた跡です。



その人たちはどこから来たのかというのが古代史の謎の一つでした。最近では遺伝子解析が進み、日本史研究に遺伝学研究所等の関わりが多くなりつつあります。はじめは母系遺伝のミトコンドリア DNA と男系遺伝の Y 染色体の解析でしたが、情報量の少なさが欠点でした。現在は核 DNA 解析が安価に実施できるようになり、人の移動経路もたどれるようになってきました。人類はアフリカから出発し世界各地に移動し日本に到着しましたが、日本人が歩いて

きた道がかなり判明し、縄文人と弥生人は日本に渡ってきた経路が異なることもわかってきました。

○世田谷区風景づくり重点区域として①水と緑を風景軸とした国分寺崖線とその一帯、②界わい形成地区の2つがあります。現在都市デザイン課が、奥沢1〜3丁目を②に指定するための活動を進めています。『奥沢ガーデンタウン構想』はその意見交換会から出てきたアイデアです。堀内会長からは構想の説明がありました。奥沢には公園が少ないので、宅地のみどり全体を公園と考え、みどりの維持管理をしていこうとする考えです。イギリスやアメリカの田園都市を参考にしました。

○奥沢の開かれた庭のビデオを鑑賞しながらのお茶休憩の後、アルパ演奏者藤枝貴子さんの素晴らしいリサイタルがありました。アルパは初めて見たという方も多いと思いますが、ハーブを小さくした感じです。材料の違いはあるようで、当然音域もハーブよりかなり高めです。藤枝さんは、全日本アルパコンクールで入賞後、アルパの本場パラグアイで経験を積んで帰国、全国各地で公演されておられるそうです。



会からのお知らせ

- ミニ園遊会を、5月19日(日)11時30分(雨天決行)よりシェア奥沢(奥沢2-32-11 堀内宅)で開催します。皆様のお越しをお待ちしています。
- NPO法人土とみどりを守る会の総会を、ミニ園遊会に先立ち10時30分から開催します。会員の皆様には出欠の葉書をお送りしましたので、総会欠席の場合は委任状に捺印の上ご返送下さい。今回もシェア奥沢の室内開催のため、雨天でも実施します。
- 土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞ御協力をお願い致します。入会のお問い合わせやご連絡などは、右の

欄にあります会の連絡先各位までどうぞ。

- 今年も世田谷区、奥沢交和会と共に、「界わい形成地区」指定に向けた風景づくりを軸とする街づくりの活動を続けます。実現には多くの住民の方、特に若い世代の参加が必要です。是非ご参加下さい。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢2-32-11 堀内正弘 5701-5901

世田谷区奥沢2-11-8 中村 修 3718-2549

世田谷区奥沢2-41-2 玉置 敬子 3724-1077

ホームページ: <http://tsuchimidori.net>

e-mail: info@tsuchimidori.net